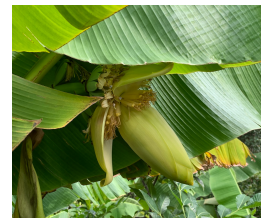


薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
11月2日
第106号



ヒキオコシ（シソ科）

第二圃場では今、淡紫色でシソ科特有の唇形の小花がたくさん見られます。私が若いころ、友人と山へ出かけたとき、始めて見た可愛い花を見ていたところ、「葉をちぎって噛んでみて」と言われ、試したとたん、そのたまらない苦味に驚きました。この経験から以後、この植物は忘れられません。全草を乾燥したものが、生薬の延命草（エンメイソウ）になり、民間薬として腹痛、消化不良、食欲不振等に対して健胃薬として用います。

和名の由来のエピソードとして知られているのは、昔、弘法太師が山道を歩いていた時、一人の行者が倒れていたのを見て、弘法太師はすぐ近くにある草をしばり、その汁を行者に含ませたところ、倒れていた行者はたちどころに元気を取り戻して、旅を続けることができました。病人を「引き起こす」という意味で、ヒキオコシと呼ばれたそうです。

バショウ（バショウ科）

園内育苗室と池の横の2ヶ所に植栽されています。今は黄色の苞に包まれた雄花と実が見られます。もう一つの目立つ大きな葉は、西遊記の中で「芭蕉扇」として登場してるのでご存知の方もいらっしゃると思います。バナナの仲間ですが、実は小さく、種も多く、苦味もあるので、日本では食用とはされません。中国原産と言われている大型の多年草で、バナナと同じ熱帯を中心に分布しますが、耐寒性があるので本州でも育ちます。日本では生薬としては使いませんが、中医学では花は芭蕉花として化痰、通經に、葉と茎を芭蕉葉として清熱、利尿に、根を芭蕉根として清熱、解毒を目的に、それぞれ使用するそうです。

いま、こんな花木がたのしめますよ！！